

『注目！神のみこころ』ヨハネ6:30-40

- 6:30 彼らはイエスに言った、「わたしたちが見てあなたを信じるために、どんなしるしを行って下さいますか。どんなことをして下さいますか。
- 6:31 わたしたちの先祖は荒野でマナを食べました。それは『天よりのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです」。
- 6:32 そこでイエスは彼らに言われた、「よくよく言うておく。天からのパンをあなたがたに与えたのは、モーセではない。天からのまことのパンをあなたがたに与えるのは、わたしの父なのである。
- 6:33 神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである」。
- 6:34 彼らはイエスに言った、「主よ、そのパンをいつもわたしたちに下さい」。
- 6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。
- 6:36 しかし、あなたがたに言ったが、あなたがたはわたしを見たのに信じようとはしない。
- 6:37 父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して拒みはしない。
- 6:38 わたしが天から下ってきたのは、自分のところのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。
- 6:39 わたしをつかわされたかたのみこころは、わたしに与えて下さった者を、わたしがひとりも失わずに、終りの日によみがえらせることである。
- 6:40 わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」。

●主題

「極悪人から伝道者へ」好地由太郎という幕末に生まれ明治時代を生きた人。

17歳の時に奉公先の若い女主人への強姦殺人・放火で逮捕され、何度も脱獄し悪事を謀り、死刑の判決を受けるも、未成年であったため減刑。その後の投獄生活ではいわゆる一番重罪人牢で過ごしていたそうです。

彼はその牢の中での一人の青年伝道者とのたった十数分の出会いを通して、聖書を求め、その後、数々の不思議を経験して、聖書を必死で読み始めました。 そんなある日、彼は恩赦を受けて出獄し、その後はひたすら伝道者として全国各地に福音を宣べ伝える伝道者とされたというのです。

彼は、当時のまさに極悪人であったことは間違いない。けれどもその彼をも変えるほどの救いのわざがあったということこそ驚きです。

なぜ？ すべてが不思議。でもハッキリわかるのは、彼の救いの背景に神さまの御心があったということです。

6:37 父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して拒みはしない。

ここに、注目すべき神の御心があるのです。

●本論

I. もう一度ズレを確認する

民衆は、イエスさまを自分たちの王に担が出そうとしたり、それがだめなら、もっと食料を…と願うようになっていきます。

さらに彼らは、自分たちの先祖はこんな風にしてもらえたと言います。

6:31 わたしたちの先祖は荒野でマナを食べました。それは『天よりのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです」。

ここからイエスさまは彼らの理解のずれについてお話になります。

①天からのまことのパンは、モーセによらず父なる神さまによって与えられるものである。

6:32 そこでイエスは彼らに言われた、「よくよく言うておく。天からのパンをあなたがたに与えたのは、モーセではない。天からのまことのパンをあなたがたに与えるのは、わたしの父なのである。

他の誰でもない「神がくださるのだ」ということをイエスさまは、「よくよく言うておく」と強調して語っているのです。

②天からのまことのパン、つまり神のパンは「この世に命を与えるものである」と。ただお腹が膨らむ経験を超えるものなのだ。

③そしてそのパンとは、イエスさまご自身のことであると。

6:33 神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである。

6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。

神さまはイエスさまを通してもっと霊的な、かけがえのない、永遠のいのちを示し、与えようとしてくださっていることを示しています。

キリストはご自分を命のパンとして、人々にお与えくださいました。彼もそれを受けたのです。

それは、わたしたちがこの世にあって何不自由のない、試練に遭わない、病気にならない、迫害にも合わない…というような人生を保証するものではありません。

むしろそういう状況の中で、キリストにある平安と慰め、そして希望を経験する人生へと招かれているのです。そこに命に満ちた祝福があると知るからです。ですからイエスさまの言葉を覚えてください。

6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。

II. だれが、それを受け取るのか

6:36 しかし、あなたがたに言ったが、あなたがたはわたしを見たのに信じようとはしない。

けれども続けてイエスさまはこう語ります。

6:37 父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して拒みはしない。

「わたしに来る者」、それはすなわち「父（なる神）がくださる者」と表現して、その人たちをイエスさまは、決して拒まない。決して追い出さない（新共同訳）。決して捨てない（新改訳）と、断言されます。

これはイエスさまご自身の断固とした決意でもあり、これこそ私たち、人のはかる秤を、はるかに超えた恵みの世界なのです。

神の御子イエス・キリストの十字架の苦しみと、あの十字架上でのとりなしの祈りがそれを証しています。

「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。 (ルカ23:34)

わたしたちがどれほど大きな真実な恵みによって救われているか、そのことに気づかされることは、本当に大切なことです。

Ⅲ. イエスの使命を見る

イエス様が、最大の関心を払い、一番にしていたのは、その証言通り、「父なる神様のみこころ」でした。

6:38 わたしが天から下ってきたのは、自分のこころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。

父なる神の御心に、「アーメン」と従って歩むこと。それは…

6:39 わたしをつかわされたかたのみこころは、わたしに与えて下さった者を、わたしがひとりも失わずに、終りの日によみがえらせることである。

6:40 わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」。

ここで対象になっている人の子とを、「（父なる神が）私に与えてくださった者」、そして「子を見て信じる者」と表現しています。

これはどれほど善良な人たちなのだろう？…と思う。

…それが私たちが日常もつ理解の奥行です。

しかし福音の世界で、神さまのその思いの奥行、広さ、深さはそれを圧倒的に凌駕します。

あの好地先生をもお救い下さったことが、証となっています。

ルカによる福音書を見ると、同じ十字架刑にあって、変えられてイエスさまを信じた人、彼に向かってイエスさまは、言われました。

ルカ23:43…「よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイス

にいるであろう」

これが父の御心であり、た救いのわざです。

まさに「わたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。」とある通りです。

わたしたちは自分を見て、また人を見て、しばしばもうこれでだめだな、と思うこと。またこれがなければ無理だ…と思うことがあります。そして、こうなってしまっ
てはおしまいだ…と思う時もあるでしょう。

しかし、覚えていてください。神の御子イエス・キリストが十字架の恥と死の苦し
みを負われたことは、そういうすべての欠けも不足も覆うだけの圧倒的な赦しと恵
みをあらわしているのです。

そしてそんな私たちを「見放さない、捨てない」と語るのです。

:39 …ひとりも失わずに、終りの日によみがえらせることである。

:40 …子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、
わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」。

イエスさまははっきりと「終わりの日」があることを語り、その日にいただく、かけが
えのない命の希望をわたしたちに示します。

わたしたちがこの約束と希望を無にしてはならない。捨ててはなりません。

最後に)

自分を見て、足りなさ覚えるとき。そこでなお、わたしたちはイエスさまの言葉に信頼
を寄せなければなりません。

:37 父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに
来る者を決して拒みはしない。

:40 …わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」。

あの好地由太郎先生は、獄中で経験した不思議、それは三度見た夢でした。

彼の前に子どもたちが現れて「若者よ、この本を食せよ」と語りものでした。

獄中のまさに罪の泥沼の真ん中で、神は彼に触れ、また彼も聖書を読み、その泥沼
からイエスさまのもとに来る者とされていったのです。

彼のその証と宣教のわざを通して、実に多くの人たちが救われたとそうです。獄中から、
そして当時の著名な実業家の人たちも。

神さまのなさることは、規格外です。そこには私たちの想像を超えた、不思議なご計
画があります。だから、一度イエスさまの声を聞いたならば決して忘れないで、そし
てこの方につながり続ける事を忘れないでください。

イエスさまは言われました。

:37 わたしに来る者を決して拒みはしない。